

- 損保ジャパン日本興亜福祉財団賞 受賞記念講演会・シンポジウムを開催
- 自動車購入費助成・住民参加型福祉活動資金助成の助成先を決定、首都圏贈呈式の開催
- ジェロントロジー研究助成の対象者を決定、首都圏贈呈式の開催
- 財団からのお知らせ

発行者 公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 損保ジャパン日本興亜本社ビル TEL：03-3349-9570 FAX：03-5322-5257

https://www.sjnkwf.org/ Eメール：office@sjnkwf.org

2018年度

vol. **2**

第19回損保ジャパン日本興亜福祉財団賞 講演会・シンポジウムを開催

7月7日（土）東京都千代田区のグランドアーク半蔵門にて、「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞[※]」の受賞記念講演会、シンポジウムを開催しました。大学関係者、学生・研究者、企業・行政の担当者、社会福祉団体関係者の皆様など、約100名の方にご参加いただきました。

※「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞」とは

社会福祉分野における優れた社会福祉学術文献を表彰する制度です。社会福祉の学問的探求を志向する多くの学者、研究者の研究意欲を促進し、社会福祉の発展に寄与することを目的としています。

第Ⅰ部では、第19回「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞」の受賞者、田中拓道氏（一橋大学大学院社会学研究科 教授）が、受賞著書『福祉政治史—格差に抗するデモクラシー』について講演されました。



田中 拓道氏

第Ⅱ部では、「市民は格差社会を変えることができるか？—福祉政治への参加の回路を探る—」をテーマにシンポジウムを開催しました。会場からの質問も踏まえて、白熱したディスカッションがなされました。

参加者からは「福祉の提供も大切だが、それを使うための知識や知恵を身につける国民の教育が重要だと感じた。」「他国との比較を含めての講演で、トップダウン型改革や政治的機会構造など、多くの気づきを得られ興味深かった。」「福祉制度、政策、利用者の境遇、在り方を考えさせられる話だった。」「格差社会は単に政治だけでなく、労働の原因もある。この問題も解決しなければならない。」「労働問題から貧困や虐待へ広がっていく連鎖がよく見えた。」「田中氏の問題提起から、湯浅氏の世論や人々の動きにみられる希望的観点や、今野氏の一般労働者への最低賃金保障が、福祉へのコンセンサスや対立構造との緩和に繋がるなどの具体的提言がかみ合うことでテーマについて考えを深めることができた。」など多くの感想が寄せられました。



シンポジウム



懇親会

【シンポジウムご登壇者】

コーディネーター：岩田 正美 氏

〔日本女子大学 名誉教授〕

パネリスト：今野 晴貴 氏

〔NPO法人POSSE代表〕

：湯浅 誠 氏

〔社会活動家／法政大学 教授〕

コメンテーター：田中 拓道 氏

〔一橋大学大学院社会学研究科 教授〕

自動車購入費助成 助成先を決定

西日本地区を対象に、6月から7月にかけて公募したところ、72件の応募をいただきました。障害者に対する福祉活動などを行う以下の10団体に合計約1,000万円の助成を決定しました。

2018年度 自動車購入費助成 助成先一覧

所在地	団体名	主な事業
滋賀県	特定非営利活動法人 小堀みつば作業所	自動車のシートベルトの組み付け作業などを通じての就労支援活動
大阪府	特定非営利活動法人 音楽サポートネット音結	音楽療育を中心とした障害児通所支援
岡山県	特定非営利活動法人 ハートフル・あしん	利用者宅へ訪問し家事の援助する居宅介護、余暇活動の支援、買い物などの移動支援
広島県	特定非営利活動法人 あおぎり	精神障害者の自主製品の製造販売、地域施設の清掃活動、料理実習などの支援
香川県	特定非営利活動法人 手と手と手	発達障害児への放課後活動、地域住民との交流、高校卒業後の就労の支援
福岡県	NPO法人 わくわーく	子どもも大人も障害があってもなくても互いを認め合い、豊かに暮らせるための活動を展開
佐賀県	特定非営利活動法人 愛えん	2歳半から就学前や小学生を対象とし、個別化した療育支援、児童を専門とした相談支援
長崎県	特定非営利活動法人 ひまわり	野菜・小物・木工品作りと販売、社会見学やミニ手話講座など地域アピール活動
大分県	特定非営利活動法人 清望会	レストラン内補助業務、施設内清掃補助業務、園芸などの就労支援、グループホーム
鹿児島県	特定非営利活動法人 tali	主たる対象を重症心身障害児とする児童発達支援と放課後等デイサービス

※助成金の贈呈式は、損保ジャパン日本興亜の支店と協力のうえ、助成先団体にて開催する予定です。



2017年度 贈呈式の様子

住民参加型福祉活動資金助成 助成先を決定

東日本地区を対象に6月から7月にかけて公募したところ、104件の応募をいただきました。地域住民が主体となつて、組織的かつ継続的にボランティアな活動に取り組んでいるかなどを基準に、以下の24団体に総額614万円の助成を決定しました。

2018年度 住民参加型福祉活動資金助成 助成先一覧

所在地	団体名	助成する活動の名称	所在地	団体名	助成する活動の名称
北海道	サタデースクール	休日の子どもの居場所づくり	千葉県	美浜こどもにほんご教室	教室の開催（外国人児童に日本語、文化、行事、習慣の支援）
北海道	特定非営利活動法人 びえいくらしの助けあい	ひなたぼっこの家交流サロン活動	東京都	こころとからだの元気Lab.	アロマリラックスたいむ 香りとタッチングで心と体を元気に！
宮城県	水梨キッズかふえ	寺子屋、イベント、子ども食堂を通して子どもの居場所づくり	東京都	高島平二丁目団地 助け合いの会	高齢者への日常生活の手助け
秋田県	特定非営利活動法人 あきた冒険遊びfrog	プレーカーで行く出張プレーパーク	東京都	特定非営利活動法人 ひょうたん島	ひよっこりクラブ（障害児・者、高齢者と地域住民との交流）
山形県	グループえがお	えがおでおうちごはんを食べよう	東京都	のしお本家食堂	多世代交流型子ども食堂
福島県	特定非営利活動法人 あだたら青い空	子どもの貧困対策と子育て支援のためのこども食堂	神奈川県	特定非営利活動法人 さくら茶屋にししば	住民の結びつき強化、大家族食堂
栃木県	ちいきカフェ “円と縁”	子どもから高齢者までが楽しい時間を過ご居場所づくり	神奈川県	虹色畑クラブ	生きづらさを抱えている人達と地域の人達との農作業体験
栃木県	特定非営利活動法人 地域生活相互支援 大山田 ノンフェール・くらねえ	かわせみ珈琲店	新潟県	越路のスポーツの 輪を広めよう会	越路のスポーツの輪を広めよう！
埼玉県	特定非営利活動法人 朝霞ぐらんぱの会	子育てサポート講座	新潟県	特定非営利活動法人 いきいき健康家族 オアシス	めぐみ子ども食堂・喫茶オアシス・親子英会話教室の開催
埼玉県	特定非営利活動法人 このまちで暮らす会	未来塾と子ども食堂NEO	石川県	日常生活支援 サポートハウス	多世帯共食の場作りと高齢者&障害者との交流農園
千葉県	王子台地区 社会福祉協議会	支えあいサービス王援隊	岐阜県	さかほぎ つぐみ食堂 「ほのぼの」	子ども食堂「ほのぼの」
千葉県	にじの会 メンズクラブ	発達障害児・者がボランティアと共に生きる力をはぐくむ事業	愛知県	せと・まんぶくこども食堂	まんぶくこどもカフェ

●首都圏贈呈式を開催

11月8日に損保ジャパン日本興亜本社ビルで首都圏の合同贈呈式を開催し、埼玉、千葉、東京、神奈川の11団体にお集まりいただきました。各団体の活動内容の紹介と意見交換会が行われました。



贈呈式の様子



ジェロントロジー研究助成 対象者を決定

全国を対象に4月から7月にかけて公募したところ、50件の応募をいただきました。高齢者を取り巻く諸問題の研究や解明に取り組む、以下の17名の対象者に助成を決定しました。

2018年度 ジェロントロジー研究助成 対象者一覧 ※共同研究の場合代表研究者

対象者 ※形態 所属	研究テーマ	対象者 ※形態 所属	研究テーマ
青木 由香 (単独) お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 大学院生	中年期未婚子の介護と就業の両立 ー就業形態・介護態勢の異同をふまえた介護者支援策の検討ー	佐野 知世 (単独) 順天堂大学 保健看護学部	認知症高齢者のBPSDの緩和過程の分析と迅速な緩和方法
畦地 良平 (単独) 日本大学大学院 文学研究科心理学専攻 大学院生	介護職員のワークエンゲイジメントおよびバーンアウトの関連要因およびそのアウトカムについての研究	田淵 恵 (共同) 中京大学 心理学部 助教	乳幼児期の子どもの触れ合いが高齢者にもたらす心理的影響 ー「ケアされる立場」から「ケアをしたい気持ち」の創発へー
五十嵐 歩 (共同) 東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻 講師	地域高齢者支援におけるコンビニエンスストアとの協働を推進する研修プログラム活用の効果	田村 直子 (単独) 高崎健康福祉大学大学院 健康福祉学専攻 大学院生	グリーフケア充実に向けての在宅看取りを支える専門職協働実践 (Inter-professional Work) 構築
池田 恭敏 (共同) 茨城県立医療大学 准教授	ドライブレコーダーを活用した参加型高齢ドライバー安全運転教育の効果	藤田 小矢香 (共同) 島根県立大学 看護学専攻看護学科 准教授	離島在住高齢者の認知機能と隠れ心不全の関連 ー軽度認知障害に隠れ心不全は原因となりうるか？ー
石川 信仁 (共同) 京都大学大学院 医学研究科 大学院生	地域高齢者における予防的介入が要介護度の発生に及ぼす影響に関するコホート研究	村山 陽 (単独) 東京都健康長寿医療センター研究所 研究員 (主任)	地域の世代間援助における互恵性に関する研究：都市部における世代間援助は、どのように持続しうるのか
板倉 有紀 (共同) 秋田大学 高齢者医療先端研究センター	地域での認知症のケアサイクルにおける住民参加と行政保健師の専門性に関する社会学的研究 ー秋田県内での社会実装のためにー	山上 優紀 (共同) 奈良県立医科大学 疫学予防医学講座 助教	サルコペニア・フレイル予防のための身体活動リズムの検証
岡本 希 (共同) 兵庫教育大学大学院 准教授	介護者の健康問題のリスク評価とナラティブ・アプローチに基づく介護負担感、自尊感情、睡眠の改善を目的とした介入研究	若林 和枝 (共同) 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部看護学科 講師	在宅認知症高齢者の福祉用具利用状況とリスクマネジメントのあり方 ー介護支援専門員と福祉用具専門相談員へのアンケート結果よりー
佐久間 美里 (共同) 名古屋大学大学院 医学系研究科看護学専攻 大学院生	通所介護施設における認知症高齢者の行動・心理症状に関する実態調査	和氣 大成 (共同) 埼玉医科大学総合医療センター 助教	健常高齢者および軽度認知障害患者に対する発症前診断告知の影響 ー認知症の効果的な告知マニュアル作成に向けてー
佐藤 惟 (単独) 東京福祉大学 助教	地域の居場所におけるアドバンス・ケア・プランニングの可能性 ー高齢者と専門職による学びの場の創出に向けたアクションリサーチー		

※2016年度ジェロントロジー研究助成者の研究成果を纏めた「ジェロントロジー研究報告書No.13」を発行いたしました。ご希望の方は財団事務局までご連絡ください。



●首都圏贈呈式を開催

11月8日に損保ジャパン日本興亜本社ビルで首都圏の合同贈呈式を開催し、茨城、埼玉、東京、静岡に所属先のある8組9名の対象者にお集まりいただきました。それぞれの研究テーマの情報交換や2016年度助成対象者の研究成果報告がありました。



贈呈式の様子



◆財団からのお知らせ



9月29日に東京で、「(公社)認知症の人と家族の会」が主催する世界アルツハイマーデー記念講演会を後援しました。

10月10日から東京ビッグサイトで開催されたアジア最大規模の福祉機器の総合展示会、第44回国際福祉機器展H.C.Rを後援しました。

